

特集

魅惑のソリスト毘沙門天



重要文化財

兜跋毘沙門天立像(とばつびしゃもんでんりゅうそう)

(画像提供 奈良国立博物館)

本学の佐藤有希子准教授が、著書「毘沙門天像の成立と展開」で第34回 國華奨励賞を受賞されました。威厳のある姿は博物館などでもひときわ目を引き、昨今ではアニメやゲームでも名前を耳にする毘沙門天。その起源は、四天王の天尊である多聞天が、独立して信仰されるようになったことにあります。今回は佐藤先生にお話を伺い、古来より多くの人を引き付けて止まない「魅惑のソリスト毘沙門天」の魅力に迫っていきます。

(以下、敬称略)

◎ 今回の取材楽しみにしておりました。本日はよろしくお願ひします！

さっそくですが、まず毘沙門天とはどのような神様なのか教えてください。

佐藤 毘沙門天は、もともと四天王の天尊としてインドで成立しました。四天王というのは、四方を護る神様です。その中で北の方を護るのが多聞天なのですが、独立して信仰されると毘沙門天になります。東の方に伝わってくるにつれて、毘沙門天だけが特別に信仰されるようになっていきます。

では、毘沙門天はどのような性格を持った神様なのかというと、お釈迦様を4人で護るガードマンとして成立したことから、武神・戦いの神様という性格を持っています。また国の戦乱の時に拜むと勝利に

導いてくれることから、護国の神様として信仰も広まりました。さらに、日本では七福神の中に取り入れられ、福の神という性格も出てくることになりました。戦いの神、福の神といった全然違う2つの性格を持った神様なんですよ。

内田 多聞天が独立して毘沙門天になるということでしたが、他の四天王は独立して信仰されることはないのですか。

佐藤 ないんです。それが面白いところなんです。毘沙門天だけが、四天王の中でソロ活動する神様です。十二神将や二十八部衆など、グループ活動している神様は多いのですが、その中でいきなりソロ活動できる神様というのは中々いません。

内田 多聞天だけがソロ活動する理由は分かっているのですか。

佐藤 これは「毘沙門天像の成立と展開」でも触れた私の説なのですが、多聞天が仏塔を持っていることが理由ではないかと考えています。多聞天のほとんどすべてが仏塔を持っており、仏塔の中にはお釈迦様の遺骨が入っています。多聞天は大事な遺骨を護る神様だったので、格が上だという認識になり、それがソロ活動の決め手になったのでしょうか。

◎ 先生が毘沙門天の研究をされようと思ったきっかけを教えてください。

佐藤 毘沙門天を研究すると決めたのは、修士1年生の時でした。朝日新聞社の事業で敦煌石窟に3か月派遣されるプログラムがあり、それに参加したことがきっかけです。行く前に偉い先生方と面接をして、何をしたいか相談するのですが、その時点で阿彌陀如来を研究するつもりでした。というのも、私は学部の卒業論文で、京都の浄瑠璃寺にある九体阿彌陀如来像を研究していたんです。しかし、阿彌陀如来だけをやっていたということもなく、浄瑠璃寺の毘沙門天像が結構面白くて、卒業論文の中でもページを割いていました。そのようなこともあり、面接の時に毘沙門天をもう少しやってみたらと言われたんです。ど

ら研究するか悩みつづ、敦煌に向かいました。敦煌での調査は、400くらいある石窟の中からいくつか申請して、許可が出たところだけ見ることができるというシステムでした。限られた日程で全部を見ることのできるわけではないので、阿彌陀如来がある石窟を見るか、毘沙門天をやってみるか決めなければいけなかったんですよ。悩んでいる時、中国でも阿彌陀如来の研究は結構進んでいることに気づきました。そしてふと、「今からすべての石窟を見ることのできる訳でもないのに、日本人の私が入って行って新しいことができるのかな」と自信がなくなりました。では毘沙門天はどうかという、敦煌には100体くらいあるのに、まだまだ研究は進んでいなかったんです。そこに自分でも何かできるかもしれないという余地を見出して、申請の前晩に、毘沙門天研究をやることを決意しました。

内田 ギリギリだったんですね…！

佐藤 そうなんです。意外と何とかなりました(笑)

とはいえ、とりあえず敦煌で毘沙門天を研究しようと思っただけで、ずっとやるうと思っていたわけではないんです。今まで続くとは思っていませんでした。

内田 阿彌陀如来から方向転換して、毘沙門天を選んだことでしたが、毘沙門天にしかない魅力などはありますか。

佐藤 毘沙門天は、変わった鎧を着ていたり、不思議なものの上に立っていたりして、面白い形をしているんですよ。アジア各地に作例も多く、実際に見に行きたいと思いましたが、1つの石窟に、毘沙門天が5体あらわされている時もあったりして面白いですよ。

◎ 毘沙門天について、少しずつ理解が深まってきたところで、次は毘沙門天像の見どころについてお聞きしたいです。今後毘沙門天に出会った時、より毘沙門天を好きになれるような着眼点があれば教えてください。

佐藤 私の専門は彫刻なので、彫刻の見方を意識してお話したいと思います。まず、毘沙門天に限らず、仏像の正面だけではなく背面や側面を見てほしいです。側面は、時代によるポリウレムの違いがよく表れます。

次は毘沙門天の話しましょう。先ほども触れましたが、毘沙門天は仏塔を持っています。そうすると、仏塔を見たくないので、実は後補のものが多くんですよ。では、もともとの形が残っているのはどこかということ、お顔ですね。お顔に注目していただくと、面白いです。怒っているお顔が多くて、見応えがあります。鎧も面白くて、両胸の装飾が阿吽になっていたり、お腹に獅子がついていたりするものもあります。あとは、足元にも着目してみてください。大抵、邪鬼などを踏みつけているはずですよ。毘沙門天は邪鬼だけではなく、地天女という女神に支えられている場合もあります。

内田 邪鬼を踏んでいる時と地天女に支えられている時があるとの事でしたが、何か性格の違いがあるのでしょうか。

佐藤 地天女に支えられている毘沙門天は、中央アジアのホータンで生まれたと考えられており、ホータンの王は毘沙門天の子孫だという神話があります。つまり、毘沙門天は国の祖として位置付けられるわけです。一方邪鬼を踏んでいる毘沙門天は、戦いの神や、悪いものをこらしめる神とし

佐藤 有希子先生 プロフィール

奈良女子大学大学院人文科学系准教授、博士(文学)。専門は日本・東洋仏教美術史(彫刻史)。中国・朝鮮半島・日本の仏教美術について図像、様式、思想背景等に注目して研究をしています。七福神のメンバーとしても知られる毘沙門天がどこで成立し、どのように信仰され、またどのような美術作品が生み出されたのか、という問題について最近まで研究してきました。今後は、11-12世紀の法隆寺において制作された美術作品(聖霊院聖徳太子像など)について研究をしていきます。

魅惑のソリスト毘沙門天



聖徳太子勝鬘経講図(重要文化財)の赤外線写真／法隆寺所蔵・奈良国立博物館撮影

が成立して変化した過程の肝になるのが、バキスタンやアフガニスタンなので、今後の研究の余地はここにあると思います。日本の作品もごく一部しか論じられていません。**内田** 本を書き上げた今、未来の毘沙門天研究者に期待することがあれば教えてください。

佐藤 余地はまだ残っているんで、埋めたいと思います。アジア各地に、毘沙門天像は点在しています。ほとんど海外にいて、実物に触れてください。

内田 余地があるとはいえ、先生のご研究はひとまず区切りがついたのではないのでしょうか。今後の研究の展望はありますか。

佐藤 今後は奈良の仏像について研究した

と考えて、文系学問という広い範囲で考えてみたいと思います。文系学問の予算が削られるなか、理系学問は大きな予算を取るようになり、新しい技術の進歩も目覚ましいものがあります。しかし、どれだけ新しい技術が生まれても、どのように我々の人生や生活に役立て、利用してよいのかということは、理系学問の枠組みでは検証できないんですよ。それを考えるには、哲学や歴史、倫理、文化のような文系の我々が考えてきた問いの立て方をしないといけない。まず、この点において文系は役に立っていると言いたいです。

ではもう少し絞って、美術史という範囲で考えてみましょう。美術史はこれからもっと注目されるようになると思っています。なぜかという点、色んな技術が生まれて、人間の生活が豊かになり、労働から解放されるようになっていくと、人々は文化とか芸術に行きつくのではないかと考えているからです。また、インスタグラムなどが流行っている今、人々の美的感覚が洗練されている印象があります。商品のパッケージなどもどんどんおしゃれになっていく。それは消費者がデザインや美術に関して、敏感になっていくからではないでしょうか。そうなるなら、美術というものを歴史的に考えてきた美術史というものが、社会に対して寄与するシーンがこれから増えてくるだろうなと思うんです。

最後に仏像研究について考えてみましょう。まず仏像研究が、直接的に経済に寄与するシーンはそれほど多くないと思っています。しかし、我々の生活が便利になっていった先に、歴史的に信仰され、大事にされてきた「美しいもの」「尊いもの」を求め

る気持ちは間違いなく高まるはずなんです。目に見える経済活動にどれくらい影響を与えるかは分かりませんが、人々の精神には間違いなく影響を与えています。ある仏像を見て救われた、感動したというような「心の抛り所」となる経験や精神作用を与えるきっかけになることができるのが、仏像研究です。

先生は現在、子育て中だとお聞きしました。これほどの分厚い本を書くというのは大変な仕事だったと思うのですが、子育てと研究を両立する上で、気を付けていることや、工夫されていることなどはありますか。

佐藤 色んなものを犠牲にしています。犠牲にしつつも目指しているのは、完璧を目指さないことです。本学の学生さんは特に、完璧主義の方が多いように思います。彼女たちに言いたい。完璧主義はやめてください！頼れるものに頼ってください。

実際私は、古代文化学コースの先生方には、とてもお世話になってます。職場に恵まれたというのは大きいですね。夫にもだいぶ助けてもらっています。もともと家族で東京に住んでいたのですが、3人目の子供を妊娠中に私は本学で就職が決まったんです。単身赴任などをどうするか悩んでいた時、夫が「みんなで奈良に行こう」と言ってくれたんです。当時NOO3などは一般的ではなかったのですが、彼自身が東京と奈良を行き来しながら仕事をできるように環境を整えてくれました。

鎌倉時代なのですが、始まりは平安時代後期頃なのではないかという説があり、その時の法隆寺で何が起こったのかを研究している途中です。聖徳太子が「勝鬘経(しょうまんぎょう)」というお経を解説している図があるのですが、そのシーンの時だけ、冠の上に毘沙門天があらわされるんです。12世紀前半の聖徳太子の彫刻にも、冠の上に毘沙門天があらわされているものがあります。この像にもともと載っていたのか、後からつけたのか。後からつけたのだとしたら、なぜつけたのか。伝説では聖徳太子が物部守屋と合戦をした時に、木で四天王像を彫って、頭の上に置いたというものがあ

るのですが、この伝説との因果関係はまだ分かりません。

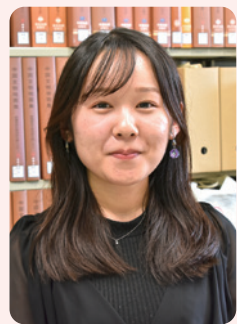
内田 今後の研究が楽しみです。

最後にメッセージをお願いします。

佐藤 みなさん、ぜひ海外に行ってください！美術史はフットワークの軽さが求められる分野です。展覧会や博物館で見ることでできる仏像でも、研究は可能ですよ。必ずしも特別な許可をもらって、じっくり調べないといけないということはありません。自分が見ることができなかった部分は先行研究などで補うとして、そういうのも活かしながら、自分でその場所に行って実物を見るのが大切です。実際に見ると記憶の定着の仕方も違いますし、新しいアイデアが浮かぶこともあるはずですよ。

本学は勤勉な学生が多く、先生はとても楽なのですが、頑張りすぎなくて大丈夫です。ちよっと肩の力を抜いて、自分を追い込みすぎないように人生を楽しんでほしいと思います。

学生記者の声



先生とお話をする中で、毘沙門天に面白さを感じ、実物を見に行きたいと感じている自分を見出して驚きました。読者の皆さんも、楽しそうにお話をしてくださる先生の言葉の引力で、毘沙門天の魅力を感じ始めたのではないのでしょうか。「実物を見たい」という衝動は、新しい世界を見に行きたいと思う欲求であると思います。このような「行動力の源泉足り得る底知れない魅力」こそ仏像の持つ力であり、それと向き合う仏像研究は人々の心に豊かさをもたらす学問です。即物的な社会の中で、形あるものの価値ばかり取り上げられがちですが、目に見えない価値を大切にできる自分でありたいと思うとともに、そのような社会であってほしいと願い、皆さんにこの記事を贈ります。

内田 小雪(うちだ こゆき)
文学部言語文化学科 日本アジア言語文化学コース3回生
出身校：新潟県立新潟高等学校(新潟県)

難しい質問で恐縮なのですが、毘沙門天を研究することによって、何を社会に還元できるでしょうか。仏像研究をする意義について、第一線で活躍されている先生のご意見をお聞きしたいです。

佐藤 そうですね、まずこの大きい問題を

考えるにあたって、文系学問という広い範囲で考えてみたいと思います。文系学問の予算が削られるなか、理系学問は大きな予算を取るようになり、新しい技術の進歩も目覚ましいものがあります。しかし、どれだけ新しい技術が生まれても、どのように我々の人生や生活に役立て、利用してよいのかということは、理系学問の枠組みでは検証できないんですよ。それを考えるには、哲学や歴史、倫理、文化のような文系の我々が考えてきた問いの立て方をしないといけない。まず、この点において文系は役に立っていると言いたいです。

ではもう少し絞って、美術史という範囲で考えてみましょう。美術史はこれからもっと注目されるようになると思っています。なぜかという点、色んな技術が生まれて、人間の生活が豊かになり、労働から解放されるようになっていくと、人々は文化とか芸術に行きつくのではないかと考えているからです。また、インスタグラムなどが流行っている今、人々の美的感覚が洗練されている印象があります。商品のパッケージなどもどんどんおしゃれになっていく。それは消費者がデザインや美術に関して、敏感になっていくからではないでしょうか。そうなるなら、美術というものを歴史的に考えてきた美術史というものが、社会に対して寄与するシーンがこれから増えてくるだろうなと思うんです。

最後に仏像研究について考えてみましょう。まず仏像研究が、直接的に経済に寄与するシーンはそれほど多くないと思っています。しかし、我々の生活が便利になっていった先に、歴史的に信仰され、大事にされてきた「美しいもの」「尊いもの」を求

ての性格が強いです。「国の祖としての毘沙門天」と「戦いの神としての毘沙門天」は、性格が違うのかもしれないですね。**内田** なるほど。着目点が分かってきたので、次に毘沙門天を見つけた時、今までより楽しめそうです。さっそく毘沙門天を見に行きたくてきたのですが、奈良近辺で見ることはできる毘沙門天の中で、おすすめはありますか。

佐藤 京都・東寺の毘沙門天像はどうでしょうか。常に公開しているわけではありませんが、地天女に支えられている毘沙門天像を見ることはできますよ。遣唐使と一緒に中国へ行ったお坊さんが持って帰って来たもので、その後の日本の仏像に及ぼした影響力が大きい像です。

法隆寺の金堂にも、11世紀頃の毘沙門天像がいらっしやいます。有名な本尊・釈迦三尊像の隣にいますので、見逃しがちだと思いますが、法隆寺に行ったら探してみてください。奥様だと言われている吉祥天とセツトになっています。

あとは、信貴山朝護孫子寺の毘沙門天まででしょうか。信貴山は、毘沙門天信仰の聖地のような場所です。金銅でできた平安時代の小さな毘沙門天像を見ることが出来ます。現地では確認することが難しいかもしれませんが、鳳凰がうつすらと背面に彫ってあることも特徴的です。

めるともお世話になってます。職場に恵まれたというのは大きいですね。夫にもだいぶ助けてもらっています。もともと家族で東京に住んでいたのですが、3人目の子供を妊娠中に私は本学で就職が決まったんです。単身赴任などをどうするか悩んでいた時、夫が「みんなで奈良に行こう」と言ってくれたんです。当時NOO3などは一般的ではなかったのですが、彼自身が東京と奈良を行き来しながら仕事をできるように環境を整えてくれました。

鎌倉時代なのですが、始まりは平安時代後期頃なのではないかという説があり、その時の法隆寺で何が起こったのかを研究している途中です。聖徳太子が「勝鬘経(しょうまんぎょう)」というお経を解説している図があるのですが、そのシーンの時だけ、冠の上に毘沙門天があらわされるんです。12世紀前半の聖徳太子の彫刻にも、冠の上に毘沙門天があらわされているものがあります。この像にもともと載っていたのか、後からつけたのか。後からつけたのだとしたら、なぜつけたのか。伝説では聖徳太子が物部守屋と合戦をした時に、木で四天王像を彫って、頭の上に置いたというものがあ

るのですが、この伝説との因果関係はまだ分かりません。

内田 今後の研究が楽しみです。

「毘沙門天像の成立と展開」は非常に分厚い本でしたが、これほど研究してもなお、毘沙門天には研究の余地が残っているのですか。

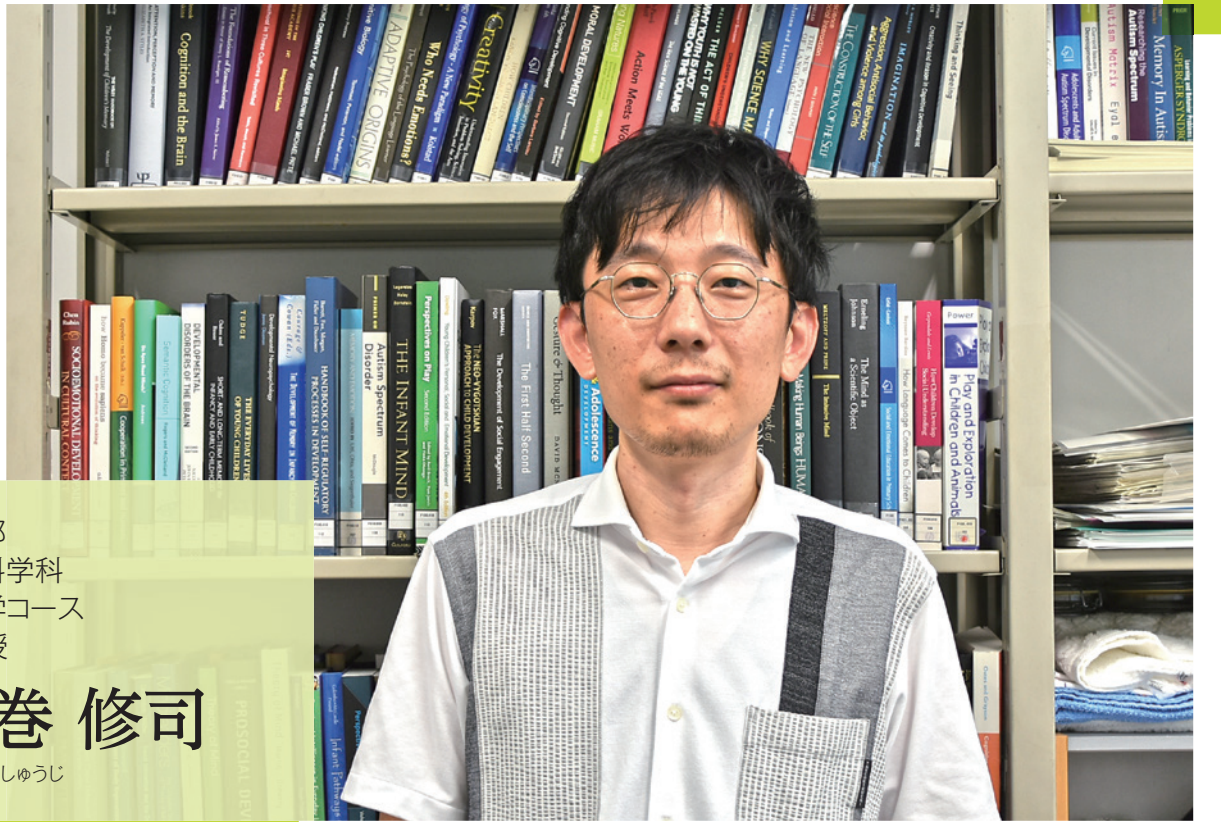
佐藤 結論から言うと、まだまだ研究の余地があります。この本を出すのに出版助成金を申請したのですが、申請結果が出たのが6月で、その次の3月までに出版を完了しないとダメでした。そのため、今回の本は急いで書かなければいけなかった部分も多く、まだ不十分なんです。論じられていない仏像が多くあります。例えば、アフガニスタンやバキスタンの仏像にはあまり触れられませんでした。政治や治安の問題でそのあたりに行くことが難しかったというのが理由です。しかし、毘沙門天



佐藤先生の著書(第34回國華奨励賞受賞/2022年)

大学院へ
ようこそ!

心理学コース



文学部
人間科学科
心理学コース
准教授

狗巻 修司

いぬまき しゅうじ

Q 狗巻先生ご自身の研究内容について教えてください。(過去・現在)

研究を始めたころから現在に至るまで、自閉スペクトラム症の子どもの対象に発達心理学の研究をしています。自閉スペクトラム症は対人関係においてその特性が顕在化する中で、他者とのやりとりがどのように発達のに変化していくのかということを中心に研究しています。

障害のある子ども発達とともに変化していくものです。研究を始めたころは保育場面での観察が中心だったので、保育者と自閉スペクトラム症の子どものように愛着関係を形成していくのかという研究や、自閉スペクトラム症の子どもの発達にどうしたらやりとりがスムーズに進むのか、保育者との関係性を築いていくのか、といったいわゆる相互交渉(インタラクション)の研究をしていました。最近では自閉スペクトラム症の診断基準の一つである反復的行動、いわゆる「こだわり」と呼ばれる行動が相互交渉にどのような影響を与えているのかということについて研究しています。

Q そのような研究をされるようになったきっかけは何ですか。

きっかけは大学生のころにやっていたボランティアの活動です。もともとは乳幼児期の子どもの発達に興味があったのですが、障害のある子どもをキャンプに連れていくというボランティアがきっかけで障害のある子どもの発達に興味をもちました。

Q 担当授業やゼミでは、どのような授業や指導をされていますか。

「子どもと接するときには「相手のことを可能な限り理解しようとする」とを大切にしています。

Q これから社会に出ていく学生に向けてメッセージをお願いします。

一つは「自分ひとりで抱え込む必要はない」ということです。仕事は一人ですものではないので、何でもかんでもすべて一人でする必要はないと思います。対人援助職を目指す学生にはよく言っているのですが、「専門性が高い」とは「ちゃんと自分自身の守備範囲を理解していること」だと思います。専門家だからといって全てできるわけではないです、自分自身の専門性でできる守備範囲を理解しておくことが大事だと思います。自分ができる範囲を超えてできないことは誰かに委ねたり一緒にやってもらったりすること、つまりヘルプを上手く出すことが大事だと思います。他者と上手にやっていく上で、相手を信頼してヘルプを上手く出すことも大事なスキルです。他者に助けを求めるときはあまりよくないように思うかもしれませんが、しかし、自分の守備範囲を理解して、守備範囲以外のものは誰かにお願いをしながら少しずつ経験を積んでいき、自分の守備範囲を広げていけばいいと思います。

また、学生の皆さんにはたくさん遊んでほしいです。勉強ももちろん大事ですが、青年期にしか経験できないことがたくさんあります。社会人になってから同じことをしても学生の時とは感じ方や得られるものが異なります。そのため、たくさん遊んでほしいと思います。また、学生時代には「悔いも残してほしい」と個人的には思います。「あの時あ

の資格を取って現場で働きたいという学生も多いので、知能検査や発達検査の実施方法や検査結果をどう解釈するのかという基礎的な部分を、指導しています。

(※これから取り組もうとする支援、または今取り組んでいる支援について、スーパーバイザーにアドバイス・指導をしてもらうこと。スーパーバイザーは学識経験者のため、発達支援を専門に研究をされている教授・准教授・講師、発達支援センターなどのセンター長などがあげられます。)

Q 発達障害や自閉症を持つ子どもについて研究をされていく中で、自分自身の考え方で変化したことを教えてください。

「人間の発達をどうとらえるか」という考えが一番大きく変わったかなと思います。もともと乳幼児期の子どもの発達に興味をもっていて、最初は「できることが増える」ことが発達であり「子どもをどのように指導、育てていくか」が大事であると捉えていました。

研究を進めるなかで多くの子どもたちと出会い「発達の主体は子ども自身であり、大人が発達させるものではない」と思うようになりました。子どもたちと接していく中で、どんなに重い障害があってもその人はその人として生きていくわけで、他人が発達させるとか導いてあげるのには非常に傲慢な考え方なんだということが気がつきました。ただ、「発達の主体が子ども自身である」とはいえ、障害があるために発達がスムーズに進みにくいこともあります。

Q 人と関わるうえで大切にしていることを教えてください。

究極のところ「他人が考えていることや他人が思っていること」を100%わかることはあり得ないし、逆に自分の気持ちを他者にすべて説明することは難しいものです。なので、いかに自分本位な考え方でなく、想像して、可能な限り相手の立場に立ちながら、自分のもっている常識をそのまま相手にもあてはめないように気を付けています。相手は何を考えてそのように行動しているのかということはいかに豊かに想像し解釈していくかということが大事になると思います。特

で、周囲からの支援が必要です。支援では子どもが発達しやすい環境をどう作るのかということが大事だと思います。支援者がしたい支援をするのではなく、子どもにとって必要な支援って何なのかを考えていかなければならないなど考えるようになりました。初めて出会ったときは、障害があるから優しく接しないといけないとか、サポートしなければいけないということを感じていたのですが、それは自分本位な考えだったと強く感じています。この考え方は障害のある子どもたちに改めて教えてもらったと思います。

また、人間関係って難しいなと思いました。障害のある子どもたちを対象とした研究を行う中で、言葉を使ってコミュニケーションをとることは「当たり前」ではないと気がつくことができました。普段何気なく自分がやっているコミュニケーションがいかにも高度なものであるのかを考えずに、それを「当たり前」ととらえてしまうことが怖いなと思います。

授業は文学部の科目が中心です。座学は「発達心理学」の授業を担当しています。より専門的なものだと「障害者・障害児心理学」などの科目や、学部と大学院での実習関係の授業を担当しています。座学では「人間が生産にわたってどのように発達していくのか」ということや、知的障害・身体障害・発達障害などをある人たちの特性や発達のな変化から「障害っていったい何なのか」について扱っています。実習の科目は、学部生では見学実習が中心です。教育機関や福祉機関、医療機関などの施設に連れていくことや、オンラインで施設の職員様から話を聞かせるもったりしています。大学院生ではより臨床的な実習を行います。障害のあるお子様に大学に来てもらい、プレイセラピーの実習を行なうとともに、実習の中で大学院生が学んでいることに対してスーパーバイザーをしていきます。

ゼミは「発達心理学」系のゼミになるので、子どもの発達に興味をもってきている学生がゼミに所属しています。学部では障害のある子どもたちを対象とした発達の研究をする学生もいますし、障害がない幼児期、学童期、なかには中高生の発達の研究をする学生もいます。大学院では、障害の有無によらず乳幼児期の子どもの研究をしている学生が多く、心理学的な実験や実験計画の立て方、観察の仕方、観察したことをどう分析していくのかということをご指導しています。加えて、公認心理師

いうこともできたらよかったですな」という思いは一見ネガティブな考えのように思えるかもしれませんが、悔いが残っているからこそその時代を振り返るものですし、振り返ってみてその時から変化した自分を感じることや、その当時自分が大切にしていたことを思い出すことにつながるからです。

コロナなどで学生らしい経験がしにくい状況ですが、学生にしかできない経験を積めるよう、濃縮した学生生活を送ってほしいなと思います。

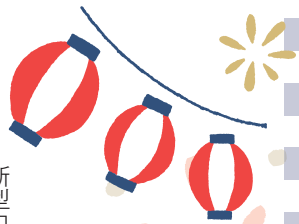
学生記者の声



「他者とのやりとり」や「言葉を使ったコミュニケーション」は高度なものであり、普段何気なく行っているコミュニケーションが当たり前でないことを改めて感じました。対人援助職を目指す学生や社会に出ていく学生に向けた「頑張ってほしいけど頑張るすぎないでほしい」「仕事を自分ひとりで抱え込む必要はない」という狗巻先生の言葉が届いてほしいと思います。

国立 桃愛(こくりゅう ももあ)

生活環境学部心身健康学科 スポーツ健康科学コース 4年生
出身校: 愛知県立一宮西高等学校(愛知県)



「祭りで楽しむナラ」

新型コロナウイルスの流行による規制が緩和され、令和5年の夏から祭り行事が本格的に戻ってきた地域は多かったことでしょう。奈良でも燈花会や天平たなばた祭りなど

どは全国的にも有名で、多くの人が参加しています。その他にも、奈良には古くから伝わり、これからも伝承していくべき伝統的な祭りが



▲小原の大踊(男性は太鼓を持ち、女性は扇を持っている)／撮影:Atsushi TANAKA

的な輪踊りはほとんどなく、すべての踊りが直線的に広がっていく点が挙げられます。

題目立

奈良市上深川町の氏神である八柱神社で10月12日に行われる秋祭りの宵宮に奉納される語り物芸のことです。題目立は、武家物語などの語り物が舞台芸能化していく過程の初期段階の姿をとどめる類例が少ないものであり、その貴重性と中世の芸能を観察できるという2つの理由から国の重要無形民俗文化財、ユネスコの世界無形文化遺産に登録されています。題目立がいつ頃始まったものなのかは定かではありませんが、上深川には享保18年(1733)に、寛永元年(1624)ごろの詞章を書写し直した詞章本が残されており、近世初期には題目立が行われていたのではないかと考えられています。



▲題目立(大仏供養)

題目立は芸能といっても、演者は立つたまま自分の台詞を読み上げるだけでほとんど動くことはありません。演目には「敵島」、「大仏供養」、「石橋山」の三曲があります。しかし、この三曲のなかで現在奉納されているのは「敵島」と「大仏供養」で、「石橋山」は長時間に及ぶ演目であるという理由から明治時代以降奉納されていません。「大仏供養」は9人で演じられ、東大寺の転害門が舞台です。平景清が鎌倉幕府初代将軍である源頼朝の暗殺を企てるものの、失敗するという内容で、3つの演目のなかでも奈良とゆかりが深い演目です。「敵島」は8人で演じられ、ソオク(造宮)とよばれる八柱神社の社殿の建て替えや修理が行われると、その年から3年は奉納されます。題目立に出演するのは数え17才の男性が中心です。上深川町では17才になると伝統的な祭祀組織である宮座に加入する慣わしがあり、座入りすることによって一人前の地域の成員として認められてきました。題目立は座入りする年齢に達した青年による氏神への奉納芸能であることから、通過儀礼の意味をもつ行事と考えられています。青年たちは舞台上並び、登場人物を一人一役で語ります。台詞の順番と役名が呼ばれると名を述べてから語りを始めます。最後には演者の一人が扇を掲げて足踏み強く舞う「フシヨ舞」が披露されます。

祭りの未来

今回紹介した祭りはどちらも古くから伝わる文化のかたちを現在にまで色濃く残し

非常に多くあることを皆さんはご存知ですか？そこで、今回はその中でも特に注目してほしい十津川の大踊と題目立について、文学部人文社会学科社会学コース教授の武藤康弘先生にお話を伺いました。

十津川の大踊

十津川村では一般的な盆踊りだけでなく、盆踊りの最後に踊られる「大踊」が小原・武蔵・西川の各地域に伝承されています。「大踊」とは古式の盆踊りで、中心になる踊りを意味します。中世から近世初期にかけて流行した風流踊の典型例が山村に伝承されたものだと考えられており、美しく、貴重な踊りであるとして国の重要無形文化財に指定されています。また、その国の歴史や文化に密接に関係する芸能や工芸技術などの無形文化を保護するためにユネスコが登録している世界無形文化遺産にも登録されています。小原では、8月1日から練習を始め、七日盆で一旦区切りをつけた後、13日の大盆に小学校の校庭で踊られています。以前は寺院の本堂で踊っていたと言われており、前列に太鼓を持った男性が、後列に女性が扇を手にして正方形に並びます。踊りの途中には房で飾った切子灯籠を笹竹につけたものを持つ人も加わります。太鼓打ちは、白・赤・緑に染め分けた長い房の付いたバチで太鼓を打ちながら、女性は扇を振りながら踊り、次に太鼓を持つ太鼓打ちの列と、バチを持った太鼓打ちの列に分かれて踊ります。なかには、農作業の服装に笠で顔を隠すなどの仮装をして踊りに加わる人もいるそうです。

であり、貴重性・重要性が非常に高いものであるということでも無形文化遺産に登録されています。一方、課題もあります。少子高齢化による人口減少に伴って継承が難しくなっているのです。西川大踊り保存会では地区の人々と学校が一丸となって大踊の伝承に取り組んでいます。しかし、各地区の中学校が統廃合されたことにより、踊りの地域差を残すことが難しくなり、どのように地域ごとの踊りの微差を残すかといった新たな課題も生まれています。

十津川村では毎年8月の盆に「ふれあい物語」という、村全体の盆踊り大会が開催されています。若男女が浴衣などを着て、美しい房を付けたバチで太鼓を打ち、また切子灯籠を下げた笹竹を持ちたりして盛大に学校の校庭などで踊ります。大踊伝承では3地区の踊りが元となっていますが、大踊では最後に3地区のうち1地区の踊りが披露されます。大踊を他地域と合わせることによって人口減少による伝承の難しさを解決すること、こと、細かな地域の微差を残していくこと、この2つの折り合いをどのようにつけていくかが大踊伝承の今後の課題となりそうです。

題目立においては、地域に子供や若者がおらず、存続が厳しい状況です。十津川では地域の特色を越えつつも、全体として保存伝承していきたいという方向性でしたが、題目立は地域の氏神に奉納するものであるため、上深川町の人々や地域だけで守っていきたいという思いを持っています。そのため、本来は17歳程度の若者を中心に披露されるものですが、人手不足により60歳程度の人も参加しています。

武蔵でも小原と同様に準備が進められ、8月14日の夕方に、旧小学校の校庭で踊られます。昔は寺院の本堂で踊られたという歴史も小原と同じです。しかし、この地区では房飾りを付けたバチで太鼓を打ちながら踊る男性、タスキをかけて扇を手にした女性、笹竹に切子灯籠を吊り下げた灯籠持ちが列を作って横に並びます。歌は男女の掛け合いで歌われます。最後は内側に太鼓持ち、太鼓打ち、扇を持った女性という三列の輪踊りになるなど複雑な形式を持つている点も特徴的です。また、歌詞に「なむあみだぶつさあおどらいで」という一文があり、念仏踊りの系譜を引くともいわれています。

西川の大踊は盆の15日に中学校の校庭で踊られていますが、もとは河原で、さらに以前は寺の堂内で踊られていたと言われています。踊りの場に人々を集める最初の踊りである「よりこ」、男性が胸に太鼓をさげながら紅白の房のついた撥を振り上げて踊る「いりは(入端)」、よりこの後方に切子灯籠の飾りが付いた笹竹を持った一団が加わった「かけ入り」という3つの演目が演じられます。よりこでは、男性は白い房を付けたバチを持つ太鼓打ちと太鼓を両手に持つ太鼓打ちに分かれ、横隊となり、その後ろに女性が両手に扇を持ちます。いりはでは、男性は胸に太鼓を吊り下げ、赤・白の長い房の付いたバチを振りながら太鼓を打ちつつ踊ります。かけ入りではよりこの形態に切子灯籠を吊り下げた灯籠持ちを加えたものです。また、かけ入りの最後には「大もち」という祝い歌も挿入されています。大きな特徴として、ヤグラが設けられる一般

地域によって祭りに対する思いや伝統継承への考え方は多様です。長い歴史を持つ祭りが多い奈良で生活する私たち。イベントとしての祭りに参加するだけではなく、その祭りの文化を学び、正しく理解し、次の世代に伝統を繋げる努力をしていきたいです。

学生記者の声



取材を通して、私自身初めて知ることばかりでとても勉強になりました。また、記事の内容について自分も新しい知識を学びつつ、それを読者の方にわかりやすく、正確に伝えるように文章を書くことの難しさを感じました。記事の中では2種類しか取り上げることができませんでしたが、その他の祭りについても武藤先生から興味深いお話を伺うことができました。残りの大学生活の間に来るだけ多くの祭りを実際に見に行きたいと思っています。今回はこのような貴重な経験をさせていただけたことに感謝しています。ありがとうございました。

松岡 灯子(まつおか とうこ)
文学部人文社会学科2回生 出身校: 山口県立萩高等学校(山口県)

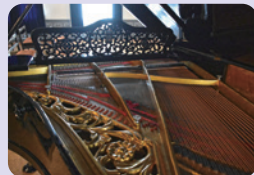


記念館 ☆重要文化財

明治42（1909）年に竣工した、学校創設以来の建物です。1階には校長室、応接室などの部屋があり、2階は講堂として使用されていました。現在、1階は奈良女の歴史や、刺繍コレクションを展示する場として使用されています。

2階の講堂には、学校創設当時に購入されたヤマハ製のピアノ（通称「百年ピアノ」）や、大正15（1926）年に購入されたスタインウェイ製のピアノも展示されています。

普段は入ることができませんが、毎年春と秋に一般公開されており、その期間は自由に立ち入ることができます。2つのピアノにも自由に触ることができるため、ピアノを弾きに立ち寄り方もいらっやいます。



百年ピアノについては
コチラのQRコードから

佐保会館

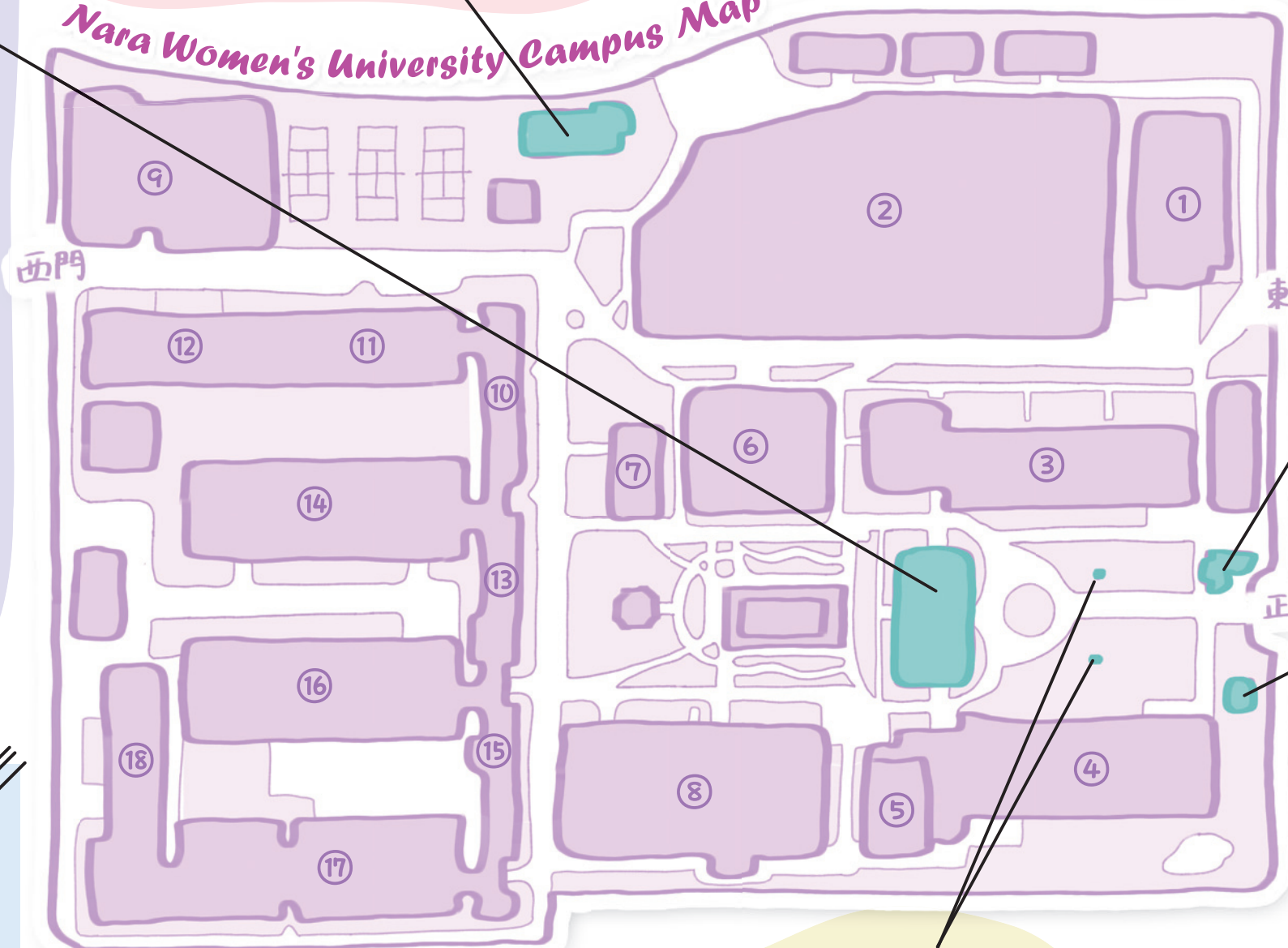
奈良女子大学の同窓会である佐保会が所有する同窓会館です。大正13（1924）年に、当時の皇太子殿下（後の昭和天皇）の御成婚記念事業として企画され、昭和3（1928）年に竣工されました。平成17（2005）年には、昭和初期の木造建築として重要であるとして、国の登録有形文化財に登録されました。1階には応接室や和室が、2階には大ホールがあり、2階には卒業生の著書が並べられています。また、実は佐保会館にも100年以上前に購入されたピアノとオルガンが残されており、歴史ある音色を聞くことができます。



ならじよ図鑑

奈良女といえば記念館が有名ですが、そのほかにも歴史あるスポットがあることをご存じですか？今回はみなさんに奈良女の見どころをさらに知ってもらいたいと、「ならじよ図鑑」を作成しました。ぜひこの図鑑とともに、魅力いっぱいの「ならじよ」を散策してみてください！

Nara Women's University Campus Map



守衛室 ☆重要文化財

記念館と同じ年に竣工した建物で、こちらも学校創設以来の建物です。十字型平面の鉄板葺の建物で、屋根の棟飾りや窓廻りは、記念館と類似した意匠でまとめられています。



奉安殿

昭和9（1934）年、創立25周年を記念し、佐保会から寄贈されたものです。奉安殿とは、戦前、天皇后両陛下の写真と教育勅語を納めていた建物で、全国で作られました。戦後、GHQから全国の奉安殿を全面撤去する指示がでたものの、大学の生物学教員が遺伝の研究用にショウジョウバエの飼育室として使うよう交渉し許可を得たため、破壊を免れ、今でも建物が残されています。



学校から足を延ばして…… 旧鍋屋交番 きたまち案内所

明治41（1908）年に設置された「鍋屋巡査派出所」を起源とする建物です。地元の人からは「鍋屋交番所」と呼ばれ、親しまれてきましたが、平成16（2004）年には奈良警察所鍋屋連絡所としての機能を終え、閉鎖されました。しかし、平成21（2009）年にこの建物の保存・活用に興味を持つ市民が集まり、「鍋屋連絡所の保存・活用と“奈良きたまち”のまちづくりを考える会」が結成され、閉鎖されていたこの建物は、修繕を経て「旧鍋屋交番 きたまち案内所」として復活しました。現在では、観光案内所としてボランティアの方々によって運営されています。



皇室ゆかりの木

昭和16（1941）年、当時の貞明皇太后陛下に八重桜を献上したところ賜ったカリンの木です。大切な樹木であるため、高さ1メートルほどの鉄柵で厳重に守られ、現在でも実をつけるほど元気に育っています。



学生記者の声



戸塚瑞季（とづか みずき）
文学部人文社会学科2年生
出身校：静岡県立浜松北高等学校（静岡県）

今回取材をするにあたって、構内の様々なところを訪れたのですが、普段あまり気に留めることのないような場所が実は歴史ある場所だった、ということが何度もあり、驚きの連続でした。取材を通して、今まで知らなかった奈良女の姿を知ることができ、改めて奈良女子大学が非常に歴史ある大学であるということを実感しました。記念館をはじめ、奈良女には昔の状態のまま残されている建物が多くあります。先人たちが残したものを大切にしているところも、奈良女の魅力のひとつであると感じました。

- ① 講堂
- ② 運動場
- ③ 文学系N棟
- ④ 文学系S棟
- ⑤ SHI Café Dear deer!
- ⑥ 学生会館
- ⑦ 保健管理センター
- ⑧ 附属図書館
- ⑨ 大体育館・小体育館
- ⑩ 大学院F棟
- ⑪ 生環系E棟
- ⑫ 大学院E棟
- ⑬ 生環系A棟
- ⑭ 生環系D棟
- ⑮ 理学系A棟
- ⑯ 理学系C棟
- ⑰ 理学系B棟
- ⑱ 理学系G棟

Club/Circle #NWU

書道部 メンバー数: 22人



活動内容
毎週月曜日、学館3階にて活動しています。学祭では書道パフォーマンスも行います！

♡お気に入り

#書道 #初心者大歓迎

❓**初心者でも入部できますか？** 全く問題ありません！「字を綺麗に書きたい」「書道パフォーマンスがしたい」など、字を書くことが好きであれば、誰でもお待ちしております！

❓**書道部の魅力とは？** 1人1人が「字が好き」「書いてみたい!」という気持ちを持って、活動しているところです！メンバーの書と向き合う姿勢は本当に素敵です。

❓**1番に残っている行事は？** 夏合宿です。普段の活動では書けないような大きな作品に各々が取り組みました。3日間本気で書と向き合い、作品を完成させた達成感はとても大きかったです！



GNWU_SHODO
活動をもっと知りたい方はこちら！

卓球部 メンバー数: 13人



活動内容
試合でよりよい結果を残すことを目指して、日々練習に取り組んでいます！

♡お気に入り

#卓球 #初心者大歓迎

❓**どんな雰囲気ですか？** 経験者、初心者問わず、皆で団体戦やそれぞれの個人の目標を達成するために練習に励んでいます。初心者の方でも先輩方に教えてもらえるので大丈夫です！

❓**入部した決め手は何ですか？** 私(現3回生)は中学と高校で卓球をしていて、大学でも運動がしたい、卓球がしたいと思い入部しました！また兄弟が卓球をやっていたからなど、部員によって理由は様々です！

❓**どんな活動をしていますか？** 週3日練習をしています。卓球は大会が多いスポーツなので、初心者でも夏までにはデビュー戦ができます！また、新入生歓迎会やクリスマスパーティーなど、大会以外のイベントもたくさんあります！



NWU.TTC
活動をもっと知りたい方はこちら！

管弦楽団 メンバー数: 43人



活動内容 年2回の演奏会や、アンサンブルコンサート、依頼演奏、恋都祭、合宿、初見大会などの活動を行っています！

♡お気に入り

#奈良県唯一の学生オーケストラ #奈良女オケ #初心者・他大生も大歓迎

❓**普段の活動について教えてください！** 週3回、主に演奏会に向けて、パート練習やセクション練習、合奏を行っています。演奏会が近くなると、指揮者の先生による合奏練習や、プロのトレーナーの先生によるレッスンもあります！

❓**奈良女オケの魅力は？** 奈良女の中では規模の大きい部活なので、友達が沢山できます！また、1年中様々な行事があるので、大学生活が充実します。演奏も運営も全て自分たちで行なうので、演奏会後は達成感があります！

❓**今後の演奏会の予定は？** 2024年5月25日にやまと郡山城ホール大ホールにて、2024年度スプリングコンサートを開催します。メンデルスゾーン交響曲第5番「宗教改革」などを演奏します。皆様のご来場を心よりお待ちしております。(定期演奏会は毎年12月頃開催)



活動をもっと知りたい方はこちら！

基礎スキー部 JUNGLE GYM



メンバー数: 8人

活動内容
冬に長野県の戸隠スキー場で練習をしています。3月の大会や検定に向け、切磋琢磨しながら活動しています！

♡お気に入り

#真冬の大冒険 #全力で冬をエンジョイ #他大学との交流

❓**初心者でも入部できますか？**

初心者大歓迎です！部員のほとんどがスキー未経験で入部しました。合宿でぐんぐん上達し、1シーズン終わる頃には1人でカッコよく滑れるようになります！

❓**オフシーズンの活動を教えてください！**

大学や運動公園で筋トレや走り込み、インラインを行い、冬の合宿に備えています。暑い中運動していると冬が恋しくなります。

❓**ズバリ、スキーの魅力は？**

白銀の世界で何日も滑るため、非日常を味わえます。時間のある大学生だからこそできる貴重な体験や、長期の宿泊を共にして生まれる先輩や同期との仲の良さが魅力です！



活動をもっと知りたい方はこちら！



富山県支部 支部長 神川 康子

(1975年 家政学部住居学科 卒業、1977年 家政学研究科住環境学専攻 修了、1997年 奈良女子大学で論文博士(学術)取得)

大学退職(富山大学理事・副学長)を機にこれまでの支部会を支えてくださった同窓生の皆様にご恩を返すつもりで、2022年8月の総会より支部長を仰せつかった新米です。富山支部の会員は現在、1945年卒業生から今春2023年卒業生まで78年の開きがある366名となっております。地方支部としては比較的会員数が多い方かと思えます。活動は2020年だけはコロナ禍で中止しましたが、毎年8月に総会を開催し、最初に各界の専門家等による講演会を開催し、その後に事業・会計報告などの協議や集合写真撮影、昼食・懇談会などを行い、毎年参加したい目標となるような総会を実施してきました。2021年からは会食や集合写真撮影を中止しており全員写真は掲載できないのですが、2023年8月の総会にも新卒22歳から88歳の大先輩まで例年以上の29名が集いました。参加者全員の近況報告でも「毎年の参加と講演会を楽しみにしている」「長生きの目標になっている」「子育てや仕事の節目で参加できるようになった」などの声をいただいたり、会が終わった後にも「人生や生き方の教訓を得た」「まだまだ学びたい」など、生き生きして帰られる印象です。

今年、1988年卒業の同窓生、中村順子氏より「三つの大学で学んだこと～家庭科教育、ギフト教育、英語多読～」というテーマで、57年間の人生で学ばれたことをお話しいただきました。元々学ぶ意欲の強い佐保会員の心を揺さぶり、参加者全員が新たな学びの意欲をもった時間となりました。富山支部会の会員の中には、話題提供して下さる人材が多くあり、今後の総会でも新しい領域の学びが積み重ねていけると確信しています。会員の職業は小・中・高・大学の教員が多いのですが、県や市町村の公務員、金融関係、ITや住宅関係等の企業に勤務し、働き続けている方々も多くいます。また、子育てや介護などに目途が付き、軽くなったフットワークで、新たに学び始めたり、様々な資格を取得したり、社会貢献をされている方々もいらっしゃいます。

たぶんどの支部も同様かと思うのですが、支部会の世話をする役員の高齢化が気になっていますので、20代、30代の会員の皆様にも一度参加していただくと、今度は友達を誘って参加しようと思ってもらえると、バトンを渡せる世代が繋がっていくのではないかと期待しているところです。今年8月の総会に、私が富山大附属小学校で卒業証書を渡した児童が佐保会新入会員として出席してくれたことが嬉しかったです。



▲2023年8月5日の総会での近況報告と講演会の様子

「なでしこ基金」へのご協力ありがとうございます

皆様方によるなでしこ基金へのご理解のもと、2023年4月1日から9月30日までの間に15,878,918円「古本(リサイクル)募金を含む」のご寄附を賜りました。心から、温かいご支援・ご協力に感謝申し上げます。

「なでしこ基金」では、生前に遺言をして遺贈する旨を明らかにするため、「遺贈寄附」を実施し、3銀行(南都銀行、三井住友銀行、三菱UFJ信託銀行)と協定を結んでいます。

「なでしこ基金」へのご寄附に際しましては、本学ホームページより、クレジットカード決済もご利用いただけます。また、皆様からご提供いただきました書籍・DVD等の買取金額を本学がご寄附として受領する仕組みである「古本(リサイクル)募金」も引き続き受け付けております。

今後も、学生に質の高い修学・研究環境を提供すべく努力してまいりますので、引き続き、ご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

